

患者さんサポート情報のご案内

IBD LIFE

潰瘍性大腸炎とクローン病に関する情報サイトとして、日常生活に役立つヒントや、患者さんの体験談など、幅広いコンテンツをご紹介します。



<https://www.ibd-life.jp/>

トレムフィア.jp

トレムフィア®に対する理解を深め、正しくご使用いただけるよう、トレムフィア®をご使用になる患者さんご家族に向けた情報を提供しております。



<https://www.tremfya.jp/>

トレムフィア® 自己注射投与動画

自己注射を正しく実施するために、トレムフィア®を自己注射される患者さんご家族に向けた動画を配信しております。



潰瘍性大腸炎患者さん向け



クローン病患者さん向け

医療機関名

ヤンセンファーマ株式会社

Johnson & Johnson

TRM-0370
TRM.Pt.292.2
2026年9月作成

©Janssen Pharmaceutical K.K. 2026

潰瘍性大腸炎

クローン病

トレムフィア® 自己注射ガイドブック

トレムフィア®を自己注射される患者さんへ



この冊子ではトレムフィア®の自己注射を安心して続けていただくことを目的として、適切かつ安全に使用していただくための手順とポイントを解説しています。

トレムフィア®皮下注200mgペン、200mgシリンジは、自己注射ができると医師により判断された場合に、処方されるお薬です。はじめてトレムフィア®の自己注射をする方は、必ず医師、看護師または薬剤師から適切な注射方法の指導を受けてください。

自己注射について、分からなくなったり、不安を感じたりした場合には、医師、看護師または薬剤師にご相談ください。



トレムフィア®を注射するための基礎知識

トレムフィア®の保管方法



光による劣化や物理的な損傷を避けるため、**箱に入れたままの状態**で保管してください



使用するまで**冷蔵庫(2~8℃)**で保管してください
チルド室には保管しないでください。お薬が入った箱が冷蔵庫に保管されていることをご家族に伝え、取り出さないよう伝えておきましょう。



冷凍しないでください



振らないでください

(お子様の手が届かないように保管し、
お手を触れないようにしてください)

注射に必要なもの

トレムフィア®皮下注ペンまたはトレムフィア®皮下注シリンジ以外は箱の中には含まれていません



トレムフィア®皮下注ペンまたはトレムフィア®皮下注シリンジ
処方された量を確認し、必要な本数をご用意ください。



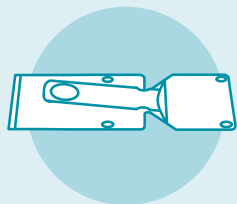
アルコール消毒綿



綿球またはガーゼパッド



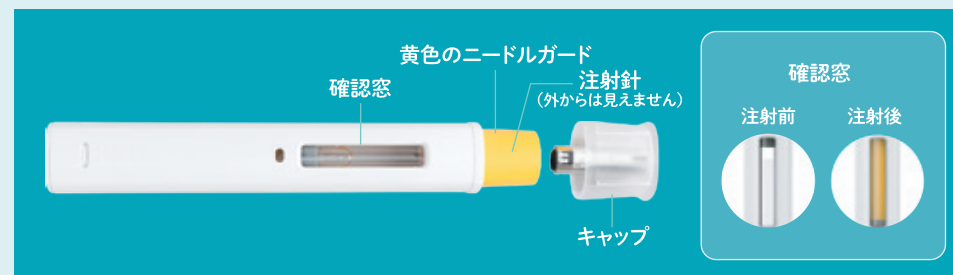
ばんそうこう
絆創膏



医療廃棄物容器(廃棄袋)

トレムフィア®皮下注ペンの構造

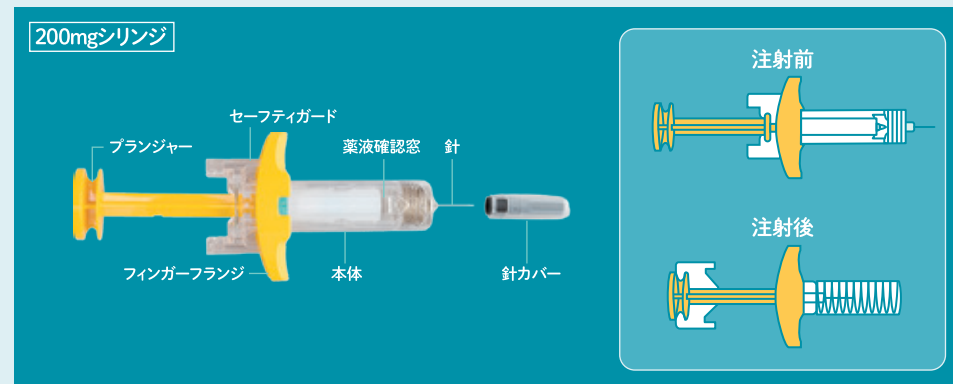
トレムフィア®皮下注ペンには、お薬があらかじめ入っており、1回使い切りです。



- 確認窓は注射前は透明ですが、注射が正常に終わると黄色に変わります。
- 黄色のニードルガードの中には針がありますが、外からは見えません。誤作動を防ぐため、黄色のニードルガードには触らないでください。
- **実際に注射する直前までキャップを外さないでください。**

トレムフィア®皮下注シリンジの構造

トレムフィア®皮下注シリンジには、お薬があらかじめ入っており、1回使い切りです。



- 注射後、セーフティガードが針をカバーして固定されます。
- 注射する準備ができるまで、プランジャーを押さえたり、引っ張ったりしないでください。
- **実際に注射する直前まで針カバーを取り外さないでください。**

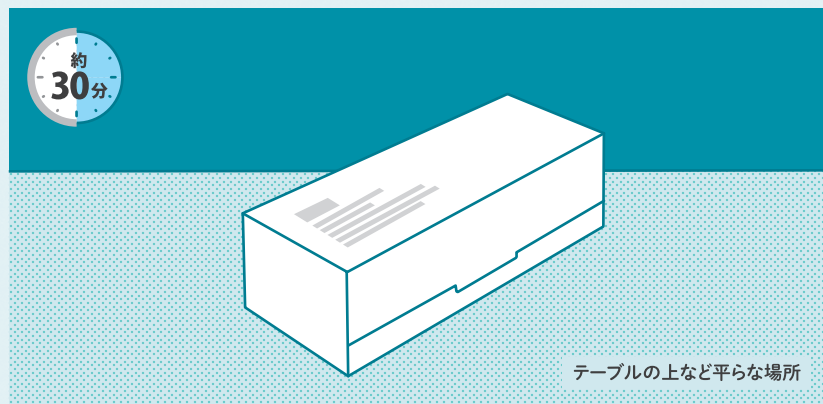


処方された量を確認し、必要な本数をご準備ください。

01

注射する約30分前に冷蔵庫からトレムフィア®皮下注ペンの箱を取り出し、室温に戻しておきます。

※箱から出さないでください



テーブルの上など平らな場所

上記以外の方法（電子レンジ、直射日光、湯煎など）で温めないでください。
箱側面に記載された**使用期限を必ず確認し、使用期限が過ぎているものは使用しないでください。**

使用期限が切れている場合や箱のミシン目が破れている場合は使用せず、医師または薬剤師に連絡して、指示にしたがってください。

02

本冊子 **P.4** の「注射に必要なもの」を確認しながら、
テーブルなどに必要なものを並べます。

必要なものを並べるにあたっては、明るく安定した場所（テーブルなど）を確保し、
除菌シート等で拭いて、清潔にしましょう。

03

箱からトレムフィア®皮下注ペンを取り出し、
ペンと薬液の状態に異常がないかを確認します。



注射可能な薬液の状態

無色もしくは淡黄色の澄明な液
白色または透明の微粒子を含む



薬液が次の場合は
注射しない

・濁っている
・変色している
・異物がある

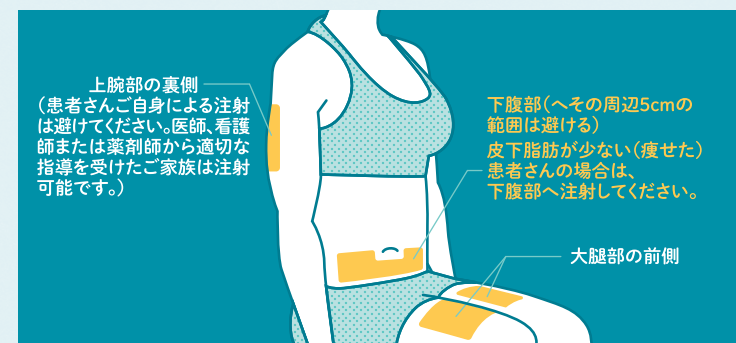
ペンが次のような
場合は注射しない

・ひび割れがある
・液漏れがある
・損傷している

なお、気泡がみられる場合がありますが正常な状態です。異常がある場合、医師、薬剤師または医療機関に連絡して、指示にしたがってください。

04

注射部位を決めましょう。



同じところへ繰り返し注射することは避けてください。
また、2本目を注射する場合、1本目とは別の部位を選ぶか、1本目の注射部位との間を5cm以上あけてください。

〈以下のような部位への注射は避けてください〉

- 押して痛みを感じる部位
- あざ、赤くなっている部位
- 硬い、厚い、またはうろこ状になっている部位
- 傷跡または肉割れ（皮膚線条）がある部位



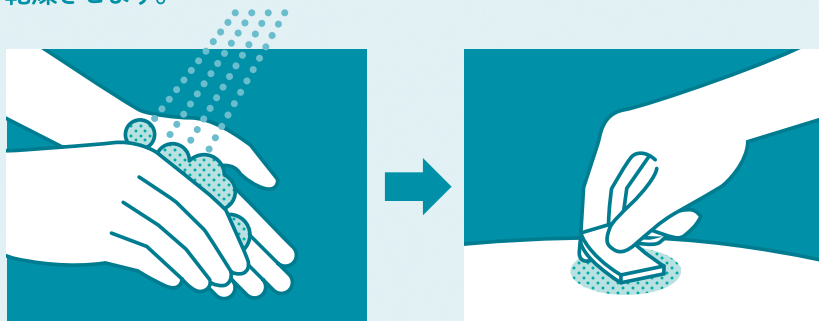


ペン ● STEP 2

注射を打つ

01

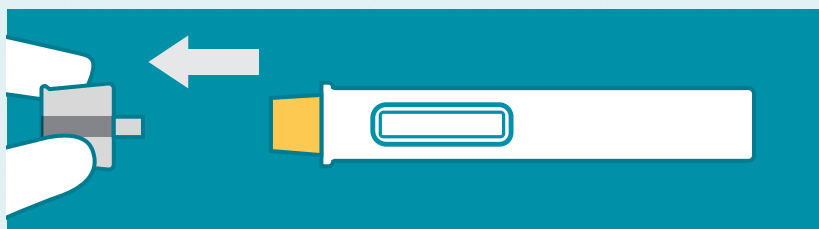
石けんと流水でよく手を洗い、注射部位をアルコール消毒綿で拭いて乾燥させます。



消毒した部位に触れたり、風を当てたり、息を吹きかけたりしないでください。

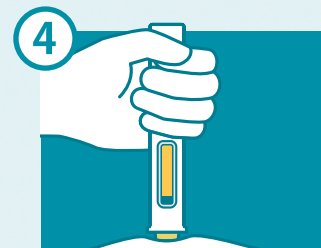
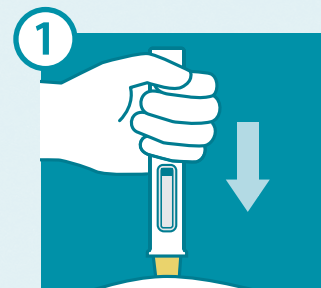
02

キャップをまっすぐ引き抜きます。



● 黄色のニードルガードに触れないでください。注射が開始され、投与できなくなることがあります。

- キャップを外してから5分以内に注射してください。
- キャップを付け直さないでください。針が破損する恐れがあります。
- キャップを外したあとペンを落とした場合は、使用しないでください。
新しいペンが必要になった場合は、医師または薬剤師に連絡して、指示にしたがってください。



黄色のニードルガードを皮膚に密着させ、確認窓が見える向きで、トレムフィア®皮下注ペンを図のように持ち、注射部位に垂直に当ててください。

皮膚をつまんで投与すると、つまんだ指に針が刺さる可能性があります。ペンは皮膚に対して垂直に当ててください。また、注射部位が平らな状態になるよう注意してください。

START

ペンを押し込み、皮膚に押し当てたままにします。1回目の「カチッ」という音が鳴り、注入が開始されます。

注射が終了するまで絶対にペンを持ち上げないでください。黄色のニードルガードがロックされ、全量が注入されなくなります。

約10秒

ペンを皮膚に押し当てたままにすると、約10秒後に2回目の「カチッ」という音が鳴ります。

この時点で投与はまだ終了していないため、ペンを皮膚から離さず押し当てたままにしてください。途中で離すと薬液が漏れることがあります。

確認窓の黄色表示の動きが止まったことを確認した時点で、注射は終了です。

ペンをまっすぐ引き上げ、注射部位を確認します。薬液が残っていたとしても再使用せず、廃棄してください。

注射部位に少量の出血または薬液が残っている場合は、出血が止まるまで、綿球またはガーゼパッドで皮膚を押さえてください。注射部位をこすったりもんだりしないでください。必要に応じ、絆創膏を貼付してください。

処方により2本のトレムフィア®皮下注200mgペンを使用する必要がある場合は、注射部位を変え、2本目のペンを使用し、1本目と同じ手順で注射してください。



ペン STEP 1



ペン STEP 2



シリンジ STEP 1



シリンジ STEP 2



共通 STEP 3

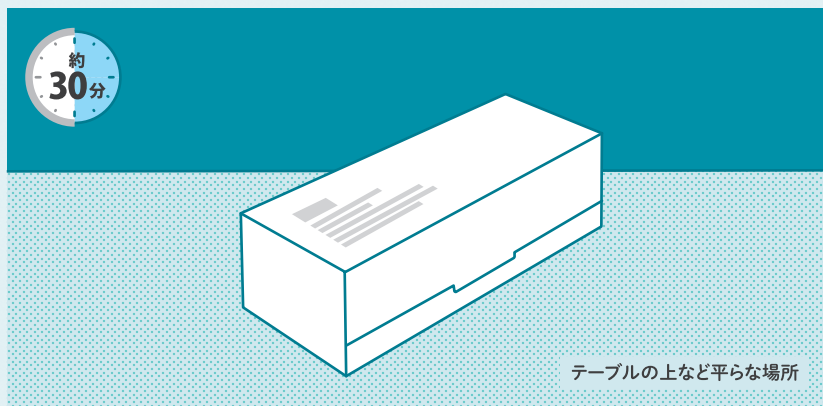


処方された量を確認し、必要な本数をご準備ください。

01

注射する約30分前に冷蔵庫からトレムフィア®皮下注シリンジの箱を取り出し、室温に戻しておきます。

※箱から出さないでください



上記以外の方法(電子レンジ、直射日光、湯煎など)で温めないでください。
箱側面に記載された**使用期限を必ず確認し、使用期限が過ぎているものは使用しないでください。**

使用期限が切れている場合や箱のミシン目が破れている場合は使用せず、医師または薬剤師に連絡して、指示にしたがってください。

02

本冊子 **P.4** の「注射に必要なもの」を確認しながら、
テーブルなどに必要なものを並べます。

必要なものを並べるにあたっては、明るく安定した場所(テーブルなど)を確保し、
除菌シート等で拭いて、清潔にしましょう。

03

箱からトレムフィア®皮下注シリンジを取り出し、
シリンジと薬液の状態に異常がないかを確認します。



注射可能な薬液の状態

無色もしくは淡黄色の澄明な液
白色または透明の微粒子を含む



薬液が次の場合は
注射しない

・濁っている
・変色している
・異物がある

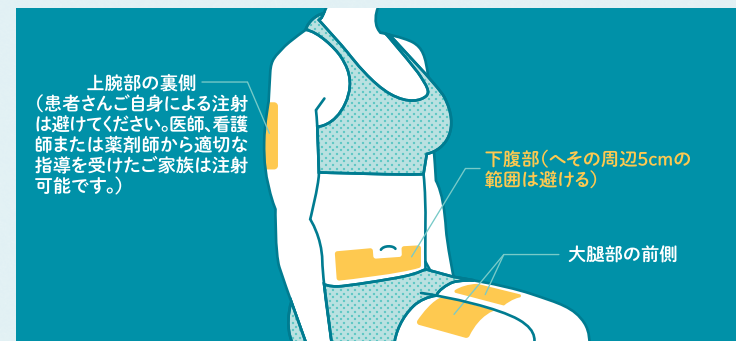
シリンジが次のような
場合は注射しない

・ひび割れがある
・液漏れがある
・損傷している

なお、気泡がみられる場合がありますが正常な状態です。異常がある場合、医師、薬剤師または医療機関に連絡して、指示にしたがってください。

04

注射部位を決めましょう。



同じところへ繰り返し注射することは避けてください。
また、2本目を注射する場合、1本目とは別の部位を選ぶか、1本目の注射部位との間を5cm以上あけてください。

〈以下のような部位への注射は避けてください〉

- 押して痛みを感じる部位
- あざ、赤くなっている部位
- 硬い、厚い、またはうろこ状になっている部位
- 傷跡または肉割れ(皮膚線条)がある部位



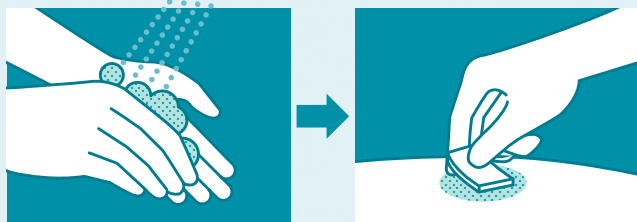


シリンジ ● STEP 2

注射を打つ

01

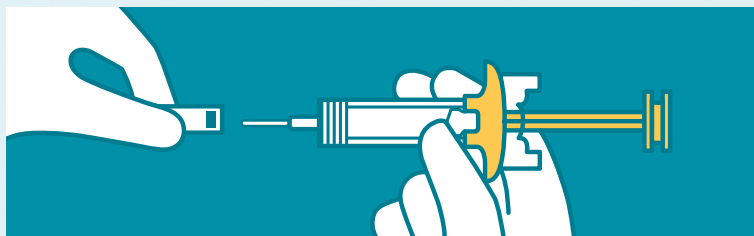
石けんと流水でよく手を洗い、注射部位をアルコール消毒綿で拭いて乾燥させます。



消毒した部位に触れたり、風を当てたり、息を吹きかけたりしないでください。

02

針カバーをまっすぐ引き抜きます。



- 針に触ったり、物が触れたりしないようにしてください。
プランジャー部分やフィンガーフランジの上の部分には触れないでください。
- 針カバーを外してから5分以内に注射してください。
- 針カバーを付け直さないでください。針が破損したり、針が刺さってけがをしたりする可能性があります。
- 針カバーを外したあとシリンジを落とした場合は、使用しないでください。
新しいシリンジが必要になった場合は、医師または薬剤師に連絡して、指示にしたがってください。

03

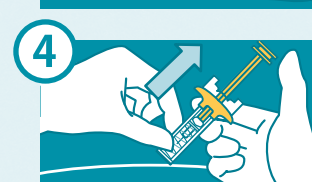
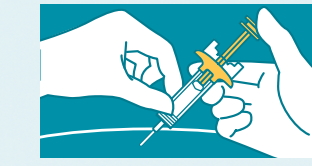
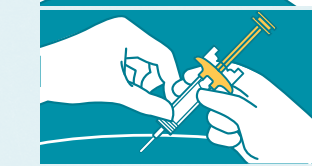
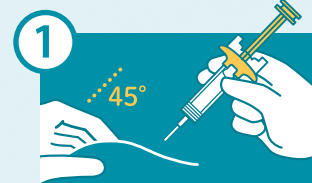
注射するための持ち方を確認します。



片手でフィンガーフランジのすぐ下を持ちます。
針刺し防止機能が誤って作動しないよう、プランジャー部分やフィンガーフランジの上の部分には触れないでください。



針の断面を上に向けて持つと注射しやすいです。



シリンジを持っていない方の手で注射部位の皮膚をつまみます。
シリンジを皮膚に対して約45度の角度から注射できるように持ちます。

筋肉ではなく、皮下に薬液が注入できるよう、十分な量の皮膚をつまんでください。

シリンジの針をつまんだ皮膚に刺します。

皮膚をつまんでいる指に針を刺さないように注意してください。

皮膚をつまんでいた手をゆっくりと離して、その指でシリンジ本体を持ちます。

フィンガーフランジ側の親指をプランジャーに置いてゆっくりと押し、薬液の注入を始めます。

フィンガーフランジ側の親指を、プランジャーが奥に達して止まるまでゆっくりと押し続けます。
プランジャーが止まったら、プランジャーを押していた指を離します。

注射針が皮膚から離れ、注射完了です

注射部位を確認します。
薬液が残っていたとしても再使用せず、廃棄してください。

注射針は本体内部に収納され、固定されます。

注射部位に少量の出血または薬液が残っている場合は、出血が止まるまで、綿球またはガーゼパッドで皮膚を押さえてください。
注射部位をこすったりもんだりしないでください。
必要に応じ、絆創膏を貼付してください。

処方により2本のトレムフィア®皮下注200mgシリンジを使用する必要がある場合は、注射部位を変え、2本目のシリンジを使用し、1本目と同じ手順で注射してください。



STEP 1



STEP 2



STEP 1



STEP 2

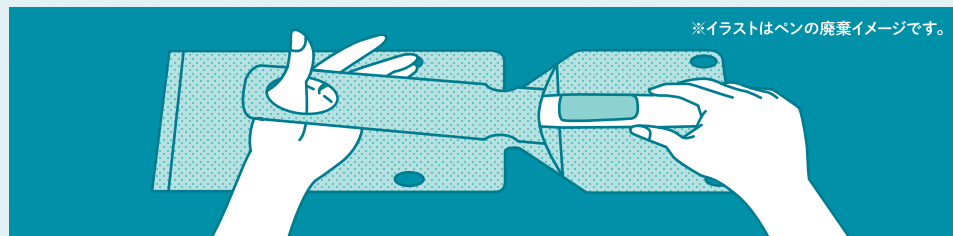


STEP 3

共通 STEP 3



使用済みのトレムフィア®皮下注ペン及びシリンジは、医療廃棄物容器（廃棄袋）にすぐに廃棄してください。



- ✕ 使用済みのペン及びシリンジや医療廃棄物容器にはお子様が手を触れないようにしてください
- ✕ 使用済みの医療廃棄物容器を再利用しないでください
- ✕ 使用済みのペン及びシリンジを家庭用のゴミ箱に捨てないでください
- ✕ 外したキャップは、付け直さず捨ててください
家庭ゴミとして捨てることもできます

使用済みのペン及びシリンジは、医師または薬剤師、医療機関の指示にしたがって廃棄してください。

トレムフィア®の副作用

トレムフィア®の注射後に、「おかしいな」と思うことがありましたら、すぐに医師もしくは看護師、薬剤師にお申し出ください。

特に注意が必要な副作用

- 重篤な感染症
過去に治療した結核が再び悪化したり（咳が続く、発熱など）、肺炎などの重い感染症を発症する可能性があります。
- 重篤な過敏症
トレムフィア®注射後、30分以内に起こることが多く、かゆみ、蕁麻疹などのアレルギー症状に似た症状や、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、心臓の動きがいつもより早く感じる、意識が薄れてくる、などの症状があります。
- 肝機能障害
倦怠感、食欲不振、発熱、黄疸、発疹、かゆみ、吐き気などの症状がみられる場合があります。

その他の主な副作用

- 頭痛
- 感染症
（気道感染、白癬菌、単純ヘルペスなど）
- 下痢
- 関節痛
- 注射部位反応

よくあるご質問

Q 予定日に注射できなかった場合はどうしたらよいですか？

A 医師に確認して指示にしたがってください。

Q 注射する時間に決まりはありますか？

A 注射する時間に決まりはありませんが、毎回同じ時間に注射するなど、注射を忘れないように習慣づけましょう。

Q 注射予定日に体調がすぐれない場合はどうしますか？

A 自己判断で注射をせずに医師に連絡し、指示にしたがってください。

Q 注射のとき、薬液がもれてしまった場合はどうしますか？

A 液もれの程度を医師に連絡し、指示を受けてください。なお、シリンジの針力バーを取り外した後に薬液のしずくがみられることがありますが、問題ありません。

Q 注射完了後に薬液が残っているのは問題ないですか？

A 注射完了後に薬液が少量残ることがありますが、問題ありません。

Q 注射のときに、薬液が目や傷口に入ってしまったらどうしますか？

A 薬液が目などに入ってしまった場合は、すぐに水で洗い流し、いつもと違うと感じた場合は、医師に連絡し、指示にしたがってください。

